議題１

令和８年１０月２９日
学校教育部指導第一課
学校教育部指導第二課

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果について（報告）

１　調査の概要

(1)　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)　調査対象（公立学校）

区分／学年	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
	国	広島県	広島市	国	広島県	広島市
小学校第６学年	18,097	440	※138	922,778	21,559	9,594
中学校第３学年	9,228	235	64	842,491	19,436	8,361

※　該当児童の在籍がない学校…小学校２校　　（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

(3)　調査期日

実施期日：令和８年４月２３日（木）

(4)　調査内容

①　児童生徒に対する調査

ア　教科に関する調査

（ア）　対象教科　小学校第６学年：国語・算数　　中学校第３学年：国語・数学・英語
（英語は３年に一度程度実施、前回は令和５年度に実施）

（イ）　出題範囲　原則、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（ウ）　出題内容

a　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

b　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

（エ）　出題方法

小学校国語・算数、中学校国語・数学においては、冊子を用いた筆記方式で実施する。中学校英語は生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システムによるオンライン方式（CBT 方式）で実施する。

（オ）　出題形式

記述式の問題を一定割合で出題する。英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式とする。

イ　質問調査

（ア）　対象　　小学校第６学年及び中学校第３学年の児童生徒

（イ）　内容　　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項

②　学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

２　調査結果の概要

(1)　各教科の平均正答率（各都道府県教育委員会及び各指定都市の結果は整数で公表）・平均 IRT スコア

小学校国語・算数、中学校国語・数学は平均正答率で、中学校英語は平均 IRT スコア（※１）で表記しています。

【小学校】

教科	国語			算数		
	国	県	市	国	県	市
R6 年度	67.7%	69%	69%	63.4%	64%	64%
R7 年度	66.8%	69%	69%	58.0%	59%	59%
R8 年度	60.9%	64%	64%	56.4%	58%	58%

【中学校】

教科	国語			数学		
	国	県	市	国	県	市
R6 年度	58.1%	58%	57%	52.5%	52%	51%
R7 年度	54.3%	55%	54%	48.3%	47%	47%
R8 年度	63.9%	64%	64%	57.0%	57%	57%

教科	英語								
	聞くこと、読むこと、書くこと			話すこと			４技能		
	国	県	市	国	県	市	国	県	市
H31 年度	56.0%	56%	56%	30.8%※2	—	—	—	—	—
R5 年度	45.6%	43%	45%	12.4%※3	12%	14%	—	—	—
R8 年度	499	492	488	—	—	—	499※4	493	489

※１　IRT（Item Response Theory：項目反応理論）とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度・測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。
IRT スコアとは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、５００を基準にした得点で表すものです。

※２　全国平均正答率のみ参考として公表されています。

※３　全国の当日実施校が実施した調査の結果を、実施状況等を考慮した統計的補正をかけ、全国値として推定されたもの（国公私立）

※４　統計的に抽出され、英語４技能を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したもの（国公私立）

(2)　令和８年度　全国学力学習状況調査　都道府県・指定都市別ノート（別紙１）

(3)　質問調査の結果について（別紙２）

(4)　令和８年度全国学力・学習状況調査　各教科調査結果及び課題のある設問（別紙３）

(5)　課題のある設問の活用例（別紙４）

参考　各教科の正答率３０%未満の割合

【小学校】

教科	国語		算数	
	国	市	国	市
R6 年度	7.7%	6.9%	10.4%	9.8%
R7 年度	7.7%	6.9%	14.7%	13.2%
R8 年度	8.7%	7.2%	15.4%	13.6%

【中学校】

教科	国語		数学		教科	英語	
	国	市	国	市		聞くこと、読むこと、書くこと	
R6 年度	12.6%	13.1%	20.3%	20.7%		国	市
R7 年度	14.0%	13.5%	31.8%	31.9%	R5 年度	36.1%	35.1%
R8 年度	8.6%	8.4%	19.4%	19.6%	R8 年度	—	—

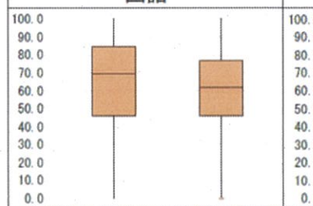
※ 中学校英語は IRT で評価するため、正答率 30%未満といった割合による区分は用いられていない。

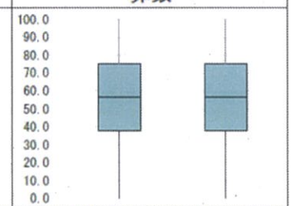
令和８年度全国学力・学習状況調査
都道府県・指定都市別ノート
広島市

【１】教科調査・質問調査の結果

①小学校

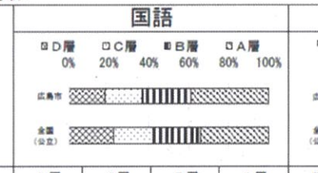
＜正答率の分布＞

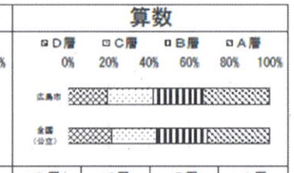




	国語		算数	
	広島市	全国（公立）	広島市	全国（公立）
第３四分位	84.6	76.9	75.0	75.0
第２四分位	69.2	61.5	56.3	56.3
第１四分位	46.2	46.2	37.5	37.5
平均正答率	64	60.9	58	56.4
標準偏差	22.9	23.1	24.6	24.9

＜正答数の層分布＞



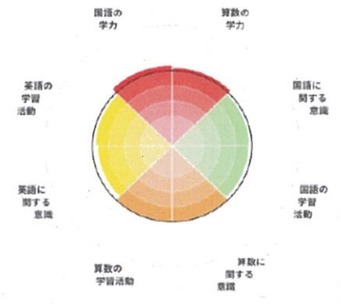


	国語				算数			
層	D層	C層	B層	A層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～5問	6～7問	8～9問	10～13問	0～5問	6～8問	9～11問	12～16問
広島市	18.2	18.3	24.3	39.2	19.6	22.7	24.7	33.1
全国（公立）	22.3	19.8	23.6	34.3	21.7	22.3	24.9	31.1

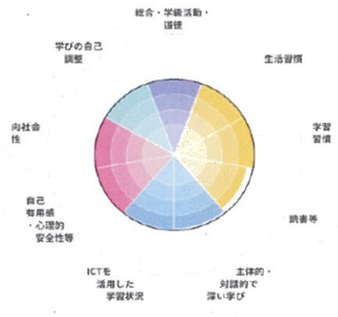
※Ａ～Ｄ層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

＜結果チャート＞　　※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

［教科を中心とした学力・学習状況］
（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］
（全国基準）



＜令和８年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		5.4
2	算数の学力		5.2
3	国語に関する意識	（52）（53）（55）	4.9
4	国語の学習活動	（54）（56）～（59）	4.8
5	算数に関する意識	（60）（61）（63）（64）	5.0
6	算数の学習活動	（62）（65）～（67）	5.0
7	英語に関する意識	（69）～（71）	4.7
8	英語の学習活動	（72）（73）	4.8

※領域番号３～８については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

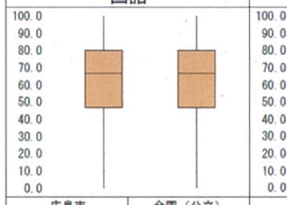
＜令和８年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と児童質問番号の対応一覧表＞

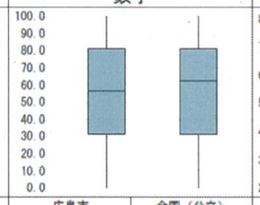
領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号	スコア 全国基準
9	総合・学級活動・道徳	（47）～（51）	5.0
10	生活習慣	（1）～（4）	5.0
11	学習習慣	（23）（25）	5.1
12	読書等	（26）～（30）	4.6
13	主体的・対話的で深い学び	（38）～（42）（44）（46）	4.9
14	ICTを活用した学習状況	（35）（36－1）～（36－4）	4.9
15	自己有用感・心理的安全性等	（6）～（9）（13）（15）（17）（20）（21）	5.0
16	向社会性	（11）（12）（14）（33）	5.1
17	学びの自己調整	（22）（43）	5.0

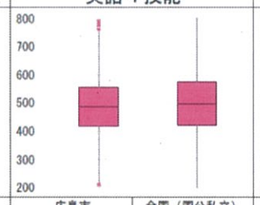
※領域番号９～１７については、「小学校児童質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

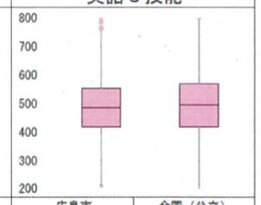
②中学校

＜正答率の分布＞





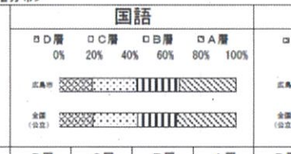


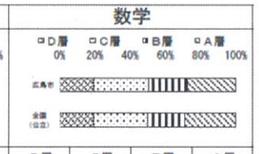


	国語		数学		英語４技能		英語３技能	
	広島市	全国（公立）	広島市	全国（公立）	広島市	全国（国公私立）	広島市	全国（公立）
第３四分位	80.0	80.0	81.3	81.3	554.9	574.6	552.5	571.4
第２四分位	66.7	66.7	56.3	62.5	487.0	498.3	484.6	494.1
第１四分位	46.7	46.7	31.3	31.3	419.3	421.9	416.4	419.4
平均正答率	64	63.9	57	57.0	485～494	499.3	485～494	499.4
標準偏差	21.6	22.1	27.4	27.9	99.5	108.1	104.1	113.7

※中学校英語は、CBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

＜正答数の層分布＞

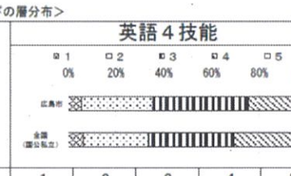


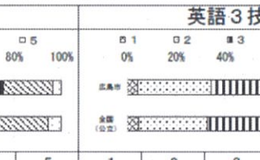


	国語				数学			
層	D層	C層	B層	A層	D層	C層	B層	A層
正答数	0～6問	7～9問	10～11問	12～15問	0～4問	5～9問	10～12問	13～16問
広島市	18.7	25.4	23.7	32.1	19.5	31.3	21.6	27.6
全国（公立）	19.5	24.9	22.1	33.5	19.5	30.4	21.0	29.1

※Ａ～Ｄ層は、全国の児童生徒を正答数の大きい順に並べ、人数割合により約25%刻みで四つに分けている。境界付近の正答数に児童生徒が多数いる程、全国値の各層の割合は25%から変動する。

＜IRTバンドの層分布＞



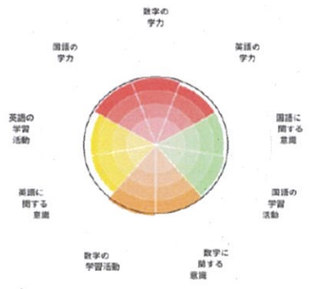


IRTバンド	英語４技能					英語３技能				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
IRTバンドスコア	～341	342～448	449～556	557～663	664～	～329	330～443	444～558	559～673	674～
広島市	5.6	29.9	40.1	20.8	3.7	4.3	30.2	42.4	19.0	4.0
全国（国公私立・公立）	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7	4.7	28.2	38.4	22.7	5.9

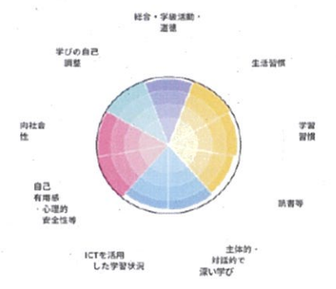
※IRTバンドの全国値について、理想的な正規分布となった場合、バンド３が約40%、バンド２及びバンド４が約23%、バンド１及びバンド５が約７%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

＜結果チャート＞　　※全国平均（5.0）を黒の実線で示している。

［教科を中心とした学力・学習状況］
（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］
（全国基準）



＜令和８年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
1	国語の学力		4.9
2	数学の学力		4.9
3	英語の学力		4.7
4	国語に関する意識	（52）（53）（55）	4.7
5	国語の学習活動	（54）（56）～（59）	4.9
6	数学に関する意識	（60）（61）（63）（64）	5.0
7	数学の学習活動	（62）（65）～（67）	5.2
8	英語に関する意識	（69）（70）（72）（73）	4.6
9	英語の学習活動	（71）（74）～（76）（78）～（80）	4.5

※領域番号４～９については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

＜令和８年度その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）の領域名と生徒質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	生徒質問対応領域・質問番号	スコア 全国基準
10	総合・学級活動・道徳	（47）～（51）	4.8
11	生活習慣	（1）～（4）	4.9
12	学習習慣	（23）（25）	4.8
13	読書等	（26）～（30）	4.6
14	主体的・対話的で深い学び	（38）～（42）（44）（46）	4.7
15	ICTを活用した学習状況	（35）（36－1）～（36－4）	4.6
16	自己有用感・心理的安全性等	（6）～（9）（13）（15）（17）（20）（21）	5.0
17	向社会性	（11）（12）（14）（33）	4.9
18	学びの自己調整	（22）（43）	5.0

※領域番号１０～１８については、「中学校生徒質問対応領域・質問番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

別紙１－２

【２】全体の特徴

・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
・小学校のＤ層の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
・中学校のＤ層の割合、バンド１の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

・小学校においては、「向社会性」や「学習習慣」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「読書等」や「英語に関する意識」領域のスコアについて、低い結果が出ている。
・中学校においては、「数学の学習活動」や「自己有用感・心理的安全性等」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「英語の学習活動」や「ICTを活用した学習状況」領域のスコアについて、低い結果が出ている（うち、「英語の学習活動」は、全国と比較しても低い）。

抽出項目（経年変化）

別紙２－１

	質問事項	校種	学力との相関	R04	R05	R06	R07	R08	前回調査との差
(1) ICTを活用した学習状況	① ５年生までに（１、２年生のときに）受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を週１回以上使用した	小学校		70.9	87.8	89.1	91.7	90.3 (87.9)	▼ -1.4
		中学校		55.2	80.9	85.4	90.9	91.7 (92.9)	△ +0.8
	② PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思う	小学校	○	—	—	—	69.7	68.0 (69.5)	▼ -1.7
		中学校	○	—	—	—	64.2	66.8 (69.4)	△ +2.6
(2) 国語の学習活動等	① 国語の勉強が好き	小学校		57.5	58.6	60.1	57.0	55.6 (57.4)	▼ -1.4
		中学校		60.9	61.8	62.0	57.6	56.1 (57.2)	▼ -1.5
	② 国語の授業の内容はよく分かる	小学校	○	82.1	84.7	86.2	81.8	80.9 (81.5)	▼ -0.9
		中学校	○	80.5	80.8	81.5	76.5	75.7 (76.8)	▼ -0.8
	③ 国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている（新規）	小学校		—	—	—	—	79.2 (80.7)	—
	国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている（新規）	中学校		—	—	—	—	75.1 (76.1)	—
(3) 算数・数学の学習活動等	① 算数・数学の勉強が好き	小学校	○	60.3	60.3	60.5	57.1	56.9 (57.6)	▼ -0.2
		中学校	○	58.5	59.5	57.2	52.5	57.6 (56.1)	△ +5.1
	② 算数・数学の授業の内容はよく分かる	小学校	○	79.2	79.9	80.7	77.0	76.7 (77.5)	▼ -0.3
		中学校	○	76.8	75.6	74.5	69.3	75.9 (74.2)	△ +6.6
	③ 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている（新規）	小学校		—	—	—	—	82.3 (83.2)	—
		中学校		—	—	—	—	63.2 (63.0)	—
(4) 英語の学習活動等	① 英語の勉強が好き	小学校	○	—	68.2	67.5	—	63.0 (66.7)	▼ -4.5
		中学校	○	—	53.3	—	—	47.8 (51.2)	▼ -5.5
	② 英語の授業の内容はよく分かる	小学校	○	—	—	77.6	—	—	—
		中学校	○	—	64.3	—	—	60.8 (64.2)	▼ -3.5
	③ 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われている	中学校	○	—	83.7	—	—	81.6 (82.8)	▼ -2.1
(5) 学習習慣	① 学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の１日あたりの勉強時間（３０分以上：塾・家庭教師等を含む）	小学校	○	84.5	83.4	80.3	81.2	79.7 (79.0)	▼ -1.5
		中学校	○	82.9	78.6	77.4	74.3	77.4 (81.1)	△ +3.1
	② 土曜日や日曜日など学校が休みの日の１日当たりの勉強時間（「全くしない」「無回答」の回答以外：塾・家庭教師等を含む）	小学校	○	83.9	82.8	80.7	78.6	71.8 (71.7)	▼ -6.8
		中学校	○	86.8	82.3	81.0	75.4	74.3 (73.9)	▼ -1.1
(6) 読書等	① 学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の１日あたりの読書時間（「全くしない」「無回答」の回答以外：電子書籍の読書を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	小学校		73.8	76.7	—	70.7	64.0 (61.2)	▼ -6.7
		中学校		64.5	66.5	—	57.3	51.6 (46.5)	▼ -5.7
	② 家に本が２６冊以上あるか（雑誌、新聞、教科書は除く）	小学校	○	72.8	70.2	65.3	62.8	65.4 (63.0)	△ +2.6
		中学校	○	66.6	65.8	62.3	59.6	63.6 (61.8)	△ +4.0
(7) 主体的な学習の調整	① 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	小学校	○	—	—	81.4	82.4	78.9 (79.4)	▼ -3.5
		中学校	○	—	—	78.2	78.0	77.8 (78.2)	▼ -0.2
	② 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	小学校	○	78.5	78.9	81.8	79.7	78.6 (78.4)	▼ -1.1
		中学校	○	75.6	71.1	79.3	76.0	79.8 (79.0)	△ +3.8

	質問事項	校種	学力との相関	R04	R05	R06	R07	R08	前回調査との差
(8) 自己有用感等	① 自分にはよいところがある	小学校		80.0	85.2	85.2	88.2	86.6 (85.6)	▼ -1.6
		中学校		82.7	83.2	84.7	86.4	84.9 (84.0)	▼ -1.5
	② 将来の夢や目標を持っている	小学校		80.1	81.0	82.3	82.9	82.0 (81.8)	▼ -0.9
		中学校		70.0	69.0	66.3	67.4	66.4 (67.6)	▼ -1.0
	③ 学校に行くのは楽しいと思う	小学校		84.7	85.7	85.3	86.3	85.4 (85.7)	▼ -0.9
		中学校		83.4	83.2	83.6	84.9	84.6 (85.4)	▼ -0.3
	④ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	小学校		—	—	92.3	93.2	93.3 (92.5)	△ +0.1
		中学校		—	—	90.2	91.2	90.9 (91.0)	▼ -0.3
(9) 向社会性	① 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	小学校		—	77.7	84.9	81.9	79.5 (80.1)	▼ -2.4
		中学校		—	62.2	73.9	73.9	70.4 (72.3)	▼ -3.5

※ 表中の[ ]は、全国平均を上回っている項目を示している。　※ 表中の「－」は、当該年調査で実施していない設問を示している。　※ 表中の令和８年度（ ）は、全国の値を示している。
※ 学力との相関の「○」は、「令和８年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省・国立教育政策研究所）において、学力との間に一定の関係がみられるとされた項目を示している。
（ただし、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は相関関係が表れにくい。）

2　学校質問調査の結果について

抽出項目（経年変化）

	質問事項	校種	学力との相関	R04	R05	R06	R07	R08	前回調査との差
(1) 指導方法	① 学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した	小学校		—	90.8	87.9	90.7	89.8 (91.2)	▼ -0.9
		中学校		—	95.3	70.3	73.4	82.9 (87.5)	△ +9.5
	② 文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行った（新規）	小学校		—	—	—	—	95.6 (94.3)	—
	表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるような指導を行った（新規）	中学校		—	—	—	—	95.3 (93.4)	—
	③ 算数・数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行った	小学校		83.6	90.8	89.3	94.2	91.3 (91.8)	▼ -2.9
		中学校		84.4	86.0	76.6	78.1	76.6 (89.2)	▼ -1.5
	④ 英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動を行った	中学校	○	—	75.0	—	—	62.5 (76.7)	▼ -12.5
	⑤ 英語の授業において、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行った	中学校		—	73.5	—	—	79.7 (78.6)	△ +6.2
(2) ＩＣＴを活用した学習状況	① 教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	小学校		90.7	95.7	97.2	95.0	92.8 (93.3)	▼ -2.2
		中学校		84.4	92.2	87.5	81.2	78.1 (89.4)	▼ -3.1
	② 児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業で週１回以上活用した	小学校		87.1	98.6	100.0	100.0	98.5 (99.2)	▼ -1.5
		中学校		76.6	92.2	98.5	96.9	98.5 (98.6)	△ +1.6
	③ 児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で週１回以上使用させた	小学校		13.6	70.3	75.7	77.7	68.1 (80.2)	▼ -9.6
		中学校		12.5	51.6	64.1	56.3	60.9 (70.7)	△ +4.6
	④ 児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表、表現する場面で週１回以上活用した	小学校		39.3	67.4	80.0	81.3	68.8 (80.2)	▼ -12.5
		中学校		50.0	62.6	70.3	65.7	56.3 (78.0)	▼ -9.4

※ 表中の[ ]は、全国平均を上回っている項目を示している。　※ 表中の「－」は、当該年調査で実施していない設問を示している。　※ 表中の令和８年度（ ）は、全国の値を示している。
※ 学力との相関の「○」は、「令和８年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省・国立教育政策研究所）において、学力との間に一定の関係がみられるとされた項目を示している。
（ただし、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は相関関係が表れにくい。）

令和８年度全国学力・学習状況調査

小学校国語の調査結果

本市－児童

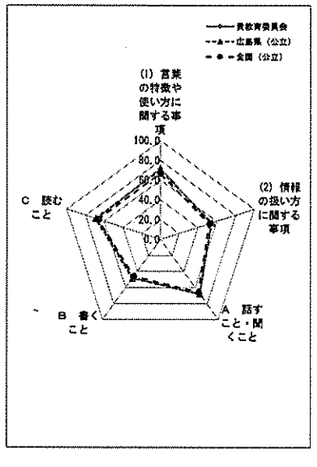
・以下の集計値／グラフは、４月２３日に実施した調査の結果を集計した値である。

１　集計結果

対象児童数	本市	全国（公立）
	9,587	922,411

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				本市	全国（公立）
全体			13	64	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	72.0	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	54.2	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	68.0	65.8
		B　書くこと	2	47.7	45.7
		C　読むこと	2	67.7	65.9
評価の観点		知識・技能	6	66.1	62.0
		思考・判断・表現	7	62.1	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	64.4	61.9
		短答式	2	70.2	62.6
		記述式	2	55.7	54.9

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



２　課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）	
						本市	（公立国）	本市	（公立国）
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	思考力、判断力、表現力等 B　書くこと	思考・判断・表現	記述式	33.8	33.5	4.3	5.2

令和８年度全国学力・学習状況調査

中学校国語の調査結果

本市－生徒

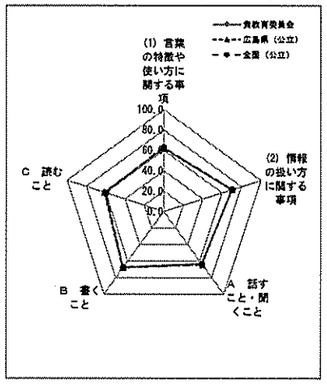
・以下の集計値／グラフは、４月２３日に実施した調査の結果を集計した値である。

１　集計結果

対象生徒数	本市	全国（公立）
	8,350	841,873

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
				本市	全国（公立）
全体			15	64	64
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	62.2	63
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	70.1	70
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	63.1	64
		B　書くこと	3	67.7	67
		C　読むこと	3	61.1	60
評価の観点		知識・技能	6	63.5	64
		思考・判断・表現	9	64.0	64
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	72.2	73
		短答式	3	56.5	56
		記述式	3	46.0	46

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



２　課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容	評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）	
						本市	（公立国）	本市	（公立国）
2四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	思考力、判断力、表現力等 A　話すこと・聞くこと	思考・判断・表現	記述式	51.5	52.7	12.6	14.7
3四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	思考力、判断力、表現力等 B　書くこと	思考・判断・表現	記述式	44.4	45.0	8.6	10.7

令和８年度全国学力・学習状況調査

小学校算数の調査結果

本市－児童

別紙３－１

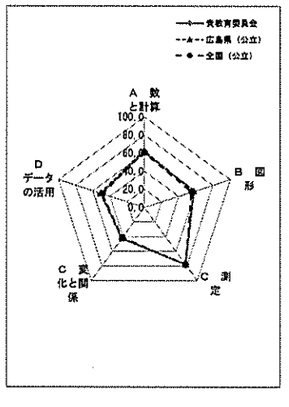
・以下の集計値／グラフは、４月２３日に実施した調査の結果を集計した値である。

１　集計結果

対象児童数	本市	全国（公立）
	9,594	922,778

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			本市	全国（公立）
全体		16	58	56.4
学習指導要領の領域	A　数と計算	8	62.1	61.1
	B　図形	4	57.6	55.3
	C　測定	1	78.0	78.1
	C　変化と関係	3	42.8	41.1
	D　データの活用	4	50.2	48.6
評価の観点	知識・技能	12	61.4	60.1
	思考・判断・表現	4	47.2	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	56.6	56.0
	短答式	8	61.3	59.7
	記述式	3	50.6	48.5

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

２　課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）	
						本市	（公立国）	本市	（公立国）
2 (3)	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	C　変化と関係	思考・判断・表現	選択式	37.1	36.1	1.5	1.6

令和８年度全国学力・学習状況調査

中学校数学の調査結果

本市－生徒

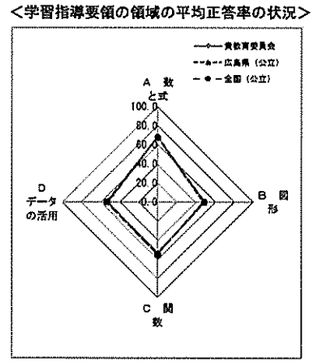
・以下の集計値／グラフは、４月２３日に実施した調査の結果を集計した値である。

１　集計結果

対象生徒数	本市	全国（公立）
	8,361	842,491

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）	
			本市	全国（公立）
全体		16	57	57.0
学習指導要領の領域	A　数と式	5	68.3	67.8
	B　図形	4	48.9	48.7
	C　関数	3	53.3	54.8
	D　データの活用	4	51.9	53.5
評価の観点	知識・技能	12	62.3	63.0
	思考・判断・表現	4	39.2	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	59.5	59.3
	短答式	9	63.2	64.2
	記述式	4	39.2	39.1

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



２　課題のある設問

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域	評価の観点	問題形式	正答率（%）		無解答率（%）	
						本市	（公立国）	本市	（公立国）
4	反比例の表において、xの値が－3のときのyの値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる	C　関数	知識・技能	短答式	53.1	55.3	0.8	1.1
9（1）	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	D　データの活用	知識・技能	短答式	43.8	46.0	13.8	14.3

令和８年度全国学力・学習状況調査

中学校英語〔３技能〕の調査結果

本市－生徒

・以下の集計値は、４月２０日から４月２３日に実施した調査の結果を集計した値である。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 (1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと［やり取り］	(4) 話すこと［発表］	(5) 書くこと	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	対象生徒数	問題の難易度	正答率(%) 本市	全国（公立）
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○			8294	4	56.7	60.2
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			2985	3	74.3	78.5
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			2652	3	75.1	76.0
4	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ						○		○			2657	4	38.3	43.8
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○			8294	4	56.1	55.6
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる		○※				○			○			8294	3	69.1	67.3
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			3012	3	70.1	72.4
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			2654	3	63.7	63.8
9	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			2628	5	44.1	49.0
10（1）	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる		ウ					○		○			8294	4	50.2	47.5
10（2）	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○				○	8294	5	25.7	27.8
11①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○				○		8294	3	57.9	58.9
11②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○				○		8294	3	47.7	52.7
12	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	2975	4	51.5	47.5
13	留学生との交流会で一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	2654	4	44.8	44.0
14	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	2665	4	24.2	27.8

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

令和８年度全国学力・学習状況調査

中学校英語〔話すこと〕の調査結果

本市－生徒

別紙３－２

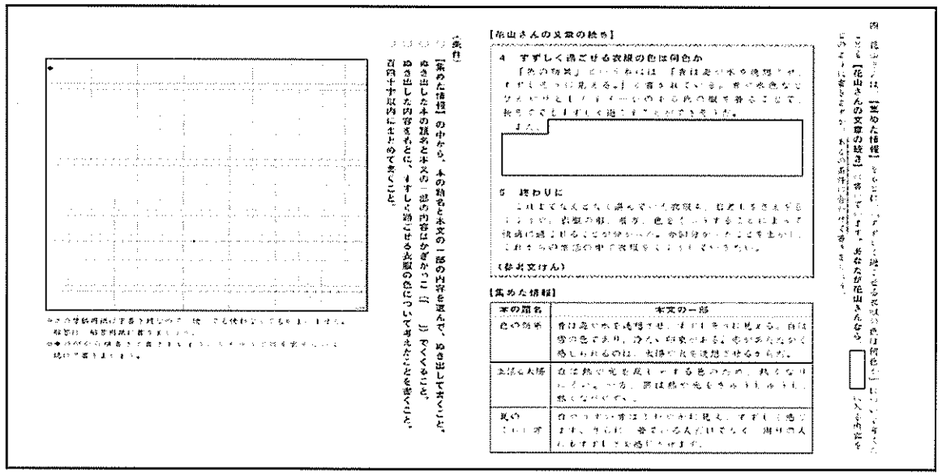
・以下の集計値は、４月２４日から５月２９日に実施した調査の結果を集計した値である。
（「全国（国公私立）*」の値は、統計的に抽出され、英語「話すこと」を当日に実施した学校の生徒の結果を集計したもの。）
※正答率欄のイタリック（下線付き）の数値は「予測正答率」を表す。ここでの「予測正答率」とは、貴教育委員会で出題されなかった公開問題について、全国の解答状況に基づき、貴教育委員会各生徒と同程度の英語４技能で算出したIRTスコアにおいて期待される正答率を指す。
※「予測正答率」や「問題の難易度」を示す対象としない問題については空欄となっている。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 (1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと［やり取り］	(4) 話すこと［発表］	(5) 書くこと	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	対象生徒数	問題の難易度	正答率(%) 本市	全国（国公私立）*
15（1）	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		7766	5	42.5	42.3
15（2）a	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		4385	4	27.8	33.5
15（2）b	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		3380	4	28.1	32.1
16	留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	2523	4	56.2	53.6
17	自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	2716	4	47.4	48.0
18	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	2527	5	20.0	21.5
19	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる				ウ			○				○	7766	5	21.0	25.8

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

2四　引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。



■学習指導要領における領域・内容
〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等　B　書くこと
エ　引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。 a　本の題名 b　本文の一部の内容 ②　抜き出した部分をかぎ（「　」）でくくっている。 ③　涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。 ④　140字以内で書いている。	33．8%	61．9%	4．3%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・　条件③は満たしているが、条件①a、b、②は満たしていないもの（反応率　29．5%）	・　【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いていない。この中には、引用して書く必要があると考えることができず、【集めた情報】の内容を自分の考えのように書いた児童がいたと考えられる。
・　条件①a、b　の両方、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの（反応率　4．7%）	・　【集めた情報】の中から本文の一部を用いて書いているものの、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童がいたと考えられる。
・　条件①a、②、③は満たしているが、条件①bは満たしていないもの（反応率　5．6%）	・　【集めた情報】の内容を基に自分が考えたことだけを書いている児童がいたと考えられる。
・　条件①b、②、③は満たしているが、条件①aは満たしていないもの（反応率　5．5%）	

内容の系統と指導のポイント　別紙４－１

小学校第1・2学年

重要な語や文を選び出す

よんで　たしかめよう「うみのかくれんぼ」（光村図書第１学年上）

「書き手が伝えたいことは何かを考える」「自分が知るべきことについて詳しく知る」といったことを意識しながら、読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要な語や文を、文章から見付けることができるようにする。

・　「何が」「どのように」「どうした」など、文の中の主語や述語などに着目しながら、色分けして線を引く活動などを設定する。

【重点指導事項】文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。（思・判・表 C(1)ウ）

小学校第3・4学年

引用を用いて、根拠を明確にして自分の考えを書く

【じょうほう】引用するとき／仕事のくふう、見つけたよ（光村図書第３学年上）

文章を引用する場合には、本や文章の一節や文、語句などをそのまま抜き出すこと、また、引用する部分をかぎ（「」）でくくることを指導することが求められる。

・　本単元で学習した「引用」を繰り返し経験することができるよう、「B 書くこと」や「C 読むこと」の他単元との関連を図る。
・　調べて報告する活動が設定されている単元において活用する場を設ける。

【重点指導事項】
・　引用のしかたや出典の示し方を理解し使うこと。（知・技(2)イ）
・　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。（思・判・表B(1)ウ）

小学校第5・6学年

引用を用いて、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

【情報】目的に応じて引用するとき／みんなが使いやすいデザイン（光村図書第５学年）

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことが重要である。そのため、本や文章などから必要な語句や文を選び、原文に正確に引用することができるようにする。

・　引用している文章と引用していない文章を読み比べる。
・　教師や友達との交流や振り返りを通して、引用した部分が自分の考えを支える理由や根拠となっているか考える。

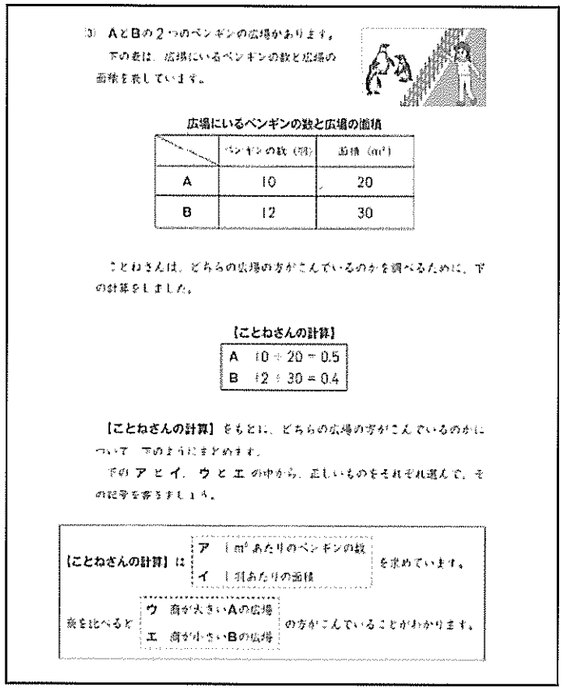
【重点指導事項】　引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。（思・判・表 B(1)エ）

【相手や目的、意図や効果を踏まえた学習指導の充実】
「書くこと」の学習において、文章の型や手順をなぞって終わる授業ではなく、児童が相手や状況、目的を意識し、相手によりよく伝わる表現を工夫する授業へと改善していくことが大切である。

本設問の活用の手順

①　引用によって文章の説得力が高まることを理解できるように、引用部分と自分の考えが明確に書き分けられている文章とそうでない文章を比較する活動を設定する。
②　引用と自分の考えとのつながりを意識できるように、「なぜその情報を集めたのか」「なぜその部分を引用したのか」といった問いを基に交流する。
③　引用によって根拠が明確になり、文章の説得力が高まったことを実感するように、自他の文章や推敲前後の文章を比較して引用の効果を振り返る場を設定するとともに、文章の履歴をクラウド上に保存して見比べられるようにする。

2 (3)　単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる。



(3)　AとBの2つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。

広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数（羽）	面積（m²）
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A　10 ÷ 20 = 0.5
B　12 ÷ 30 = 0.4

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。
下の ア と イ、ウ と エ の中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は［ア　1 m²あたりのペンギンの数 / イ　1羽あたりの面積］を求めています。
数を比べると［ウ　商が大きいAの広場 / エ　商が小さいBの広場］の方がこんでいることがわかります。

■学習指導要領における領域・内容
〔第5学年〕C 変化と関係
（2） 異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
（ア） 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
（正答の条件） 記号ア及び記号ウと解答しているもの	37.1%	61.5%	1.5%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・ 記号イ及び記号ウと解答しているもの（反応率 24.3%） ・ 記号イ及び記号エと解答しているもの（反応率 22.9%）	・ 約半数の児童がイを選んでおり、示された式がペンギン1羽あたりの面積を求めていると誤って捉えている。

内容の系統と指導のポイント　別紙４－２

小学校第4学年

簡単な場合について、数量の関係どうしを割合で比べる

どちらがよくのびるといえるか、くらべ方を考えよう（東京書籍第４学年上）

テープ図や数直線などの図を用いて、基準量と比較量を表し、割合を求めるなどして包帯の伸び具合を判断する。

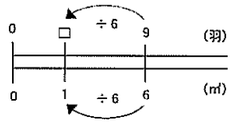
〔変化と関係〕
日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察すること。

小学校第5学年

目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察する

面積もうさぎの数もちがうときの、こみぐあいの比べ方を考えよう（東京書籍第５学年下）

数直線などの図を用いて、数量の関係を整理し、単位量当たりの大きさを求めるなどして混み具合を判断する。



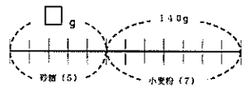
〔変化と関係〕
異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

小学校第6学年

数量の関係どうしを比で比べる

比の一方の量を求める方法を考えよう（東京書籍第６学年）

線分図などの図を用いて、数量の関係を比で表現し、等しい比をつくるなどして課題を解決する。



〔変化と関係〕
日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

中学校第1学年

比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する

比例と反比例の利用（学校図書第１学年）

表、式、グラフなどを用いて、数量の関係を表し、その関係を比例や反比例とみなして課題を解決する。

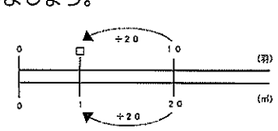
x（日後）	0	1	2	3	4	5
y（cm）	0	-0.2	-0.6	-0.9	-1.1	-1.5

〔変化と関係〕
比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し、表現すること。

Point　問題の把握や解決の場面において、図や数直線などを用いて、数量の関係を整理したり表現したりすることが大切である。

本設問の活用の手順

図や数直線などを用いて、単位量当たりの大きさを求める式の意味について理解できるようにするために、
① 本設問を活用し、式（10÷20 と 12÷30）の意味を考え、図や数直線を使って表現する場面を設定する。
・指示（例）：この式になった理由を図や数直線を使って説明しましょう。
② 商（0.5 と 0.4）が何を表しているか考える場面を設定する。
・発問（例）：0.5 と 0.4 は何を表していますか。
③ 商の大小で何が判断できるか考え場面を設定する。
・発問（例）：そこから何が分かるでしょうか。



参考資料

2四　互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。

2　合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは学級の目標を達成するための課題についてアンケートをとり、その解決のために、出された意見をタブレット端末で共有しながら話し合っています。次の【アンケートの結果を示した画面】、【話し合いの一部】、【話し合いを受けて整理した画面】を読んで、あとの問いに答えなさい。

※　紙面の都合により、本文、問題等文は右の二次元コードよりご確認ください。

（国立教育政策研究所 HP）

四　【話し合いの一部】で山下さんは、――線部④「『美しい歌声を響かせよう』という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたら伝えたらよいでしょうか。」と投げかけています。これを受けて、あなたならどのような意見を述べますか。次の条件1と条件2に従って、この場の三人に実際に話すように書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　学級のみんなにどのように伝えたらよいかについて、自分の考えと理由を書くこと。

条件2　条件1について、大森さんと石川さんの意見の両方を取り上げながら書くこと。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等　A　話すこと・聞くこと

オ　互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

≪話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）≫

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
（正答の条件） 次の要件を満たして解答している。 ①　学級のみんなにどのように伝えたらよいかについて、自分の考えと理由を書いている。 ②　大森さんと石川さんの意見の両方を取り上げながら書いている。 ③　実際に話すように書いている。	５１．５％	３５．９％	１２．６％

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・　正答の条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの （反応率　１６．８％） ・　その他の解答 （反応率　１７．９％）	・　自分の考えと理由を述べることにとどまり、話し合いの展開に応じて互いの立場や考え方を結び付けたり、話し合った内容を踏まえて述べたりすることができていない。

内容の系統と指導のポイント

別紙４－３

小学校第5・6学年

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる

令和４年度全国学力・学習状況調査　（小学校）

1四　「ごみ拾い」か「花植え」のどちらかを選んで、［　　］でどのように話すかを書く

〈正答例〉ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。

正答率48.0%　誤答率49.6%　無答率2.4%（広島市）

（国立教育政策研究所 HP）

A　話すこと・聞くこと　オ
互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。

中学校第1学年

話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる

令和６年度全国学力・学習状況調査　（中学校）

1四　話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く

〈正答例〉山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。

正答率47.3%　誤答率44.7%　無答率8.0%（広島市）

（国立教育政策研究所 HP）

A　話すこと・聞くこと　オ
話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

中学校第2学年

Point

話し合いの際には、互いの立場や考えを結び付けたり、話し合った内容を踏まえたりして発言できているかを意識させる。

互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる

「立場を尊重して話し合おう」（光村図書出版第２学年　※令和８年度使用）

学習活動

①　テーマと用語の定義を全体で確認し、各自で根拠となる情報を集める。
②　立場を決め、意見と根拠、理由付けを整理する。
③　互いの立場や考えを尊重しながらグループで討論を行い、考えをまとめる。
④　相手の意見や質問などを通して得られた新たな気付きを報告し合う。

A　話すこと・聞くこと　オ
互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

本設問の活用の手順

［互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる活動］

①　本設問の【話し合いの一部】を読み、話し合いの話題や展開を捉えさせる。
②　大森さんと石川さんの発言からそれぞれの意見を整理し、その背景について考えさせる。
③　二人の意見の両方を取り上げながら、自分ならどのように発言するかを考えさせる。

※　「立場を尊重して話し合おう」の単元の事前学習として本設問を活用することで、互いの立場や考えを尊重することについて理解を深めることができ、一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で相違点や共通点を見いだし、新たな提案なども踏まえて話し合いを進行していくことが期待される。

3四　表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。

3

石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の【石井さんが書いている随筆】を読んで、あとの問いに答えなさい。

※　紙面の都合により、本文、問題文等は右の二次元コードよりご確認ください。

（国立教育政策研究所 HP）

四　石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。【1段落についての交流場面①】をもとにした【メモ①】の書き方を参考にしながら、【1段落についての交流場面②】をもとにして【メモ②】を書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等　B　書くこと

オ　表現の工夫とその効果などについて読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。≪精査・解釈≫

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　<よい点や改善点>の欄に、「相棒」と表現したことについてのよい点や改善点について、【1段落についての交流場面②】の内容を基にして書いている。 ②　<生かしたいこと>の欄に、<よい点や改善点>の欄に書いたことを踏まえて、比喩の用い方などについて、今後随筆を書くときに生かしたいことを書いている。	４４．４％	４７．０％	８．６％

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・　正答の条件②のみ満たして解答しているもの （反応率　１７．１％） ・　その他の解答 （反応率　２０．１％）	・　比喩の用い方など、今後随筆を書くときに<生かしたいこと>を書くことはできているが、【1段落についての交流場面②】の内容を基にして<よい点や改善点>を書くことができていない。

内容の系統と指導のポイント　別紙４－４

小学校第5・6学年

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

令和４年度全国学力・学習状況調査　（小学校）

3二　【伝え合いの様子】の一部を基に、【文章２】のよさを書く。

〈正答例〉わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のだん落に具体的に書いたりしたところです。

（国立教育政策研究所 HP）

正答率39.0%　誤答率46.7%　無答率14.3%（広島市）

B　書くこと　カ
文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

中学校第1学年

根拠を明確に示すために、資料を適切に引用できているかなどについて伝え合う

「根拠を明確にして書こう」（光村図書出版第１学年　※令和８年度使用）

学習活動

①　資料を参考にして課題を決め、情報を集める。
②　集めた情報を整理し、レポートの項目ごとに書く内容と順序を考える。
③　根拠の示し方や引用の仕方などに注意して文章をまとめる
④　レポートを読み合い、根拠が明確に示せているかなどについて伝え合う。

B　書くこと　オ
根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

中学校第2学年

「国語を学ぶ意義」を伝えるための学びの価値付け方や解説の仕方について、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う

「国語の学びを振り返ろう」（光村図書出版第２学年　※令和８年度使用）

学習活動

①　１年間の学習を振り返り、できるようになったことや自分が変わったと思うことを語り合い、「国語を学ぶ意義」について考える。
②　自分が考える「国語を学ぶ意義」をコピーにまとめ、作成の意図や理由について説明する文章を書く。
③　作品を読み合い、学びの価値付け方や解説の仕方について、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。

B　書くこと　オ
表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

「共有」の場面における読み手からの助言は「推敲」とは異なり、次の書く活動にどのように生かすかを考えさせることが重要である。

本設問の活用の手順

［創作した随筆について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことを通して書くことに関する資質・能力を育成する活動］

①　本設問を活用して表現の工夫とその効果について交流し、多様な表現の工夫があることを確認させる。
②　自分が書きたい話題を基に随筆を書かせる。（「こだわりの一文」とその意図をメモさせておく。）
③　表現の工夫に着目してグループで互いの文章を読み合い、「光る一文」を見付けさせる。
④　それぞれの「こだわりの一文」と「光る一文」についてグループで交流させる。
⑤　自分の作品のよい点や改善点を見いだし、次の活動に生かしたいことをまとめさせる。

中学校数学

4　反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができる。

4　下の表は、ｙがｘに反比例する関係を表したものです。□に当てはまる数を答えなさい。

x	・・・	-3	-2	-1	0	1	2	・・・
y	・・・	□	-6	-12	×	12	6	・・・

■学習指導要領における領域・内容

〔第１学年〕　Ｃ　関数

（１）　比例、反比例について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　　次のような知識及び技能を身に付けること。

（イ）　比例、反比例について理解すること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
・　－４	５３．１％	４６．１％	０．８％

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・　－３ （反応率２０．６％）	・　ｙの値に着目し、－６が－１２の$\frac{1}{2}$倍になっていることから、□の値も－６の$\frac{1}{2}$倍になると捉えた。
・　０ （反応率１４．４％）	・　ｙの値が－１２から－６に変化していることについて、「６増加する」のように差に着目した。

内容の系統と指導のポイント

別紙４－５

小学校第6学年

２つの数量関係について、表や式、グラフを用いて表す

反比例の関係を表や式、グラフを用いて表してみよう。（東京書籍第６学年）

直方体の形をした水槽に水をいっぱいに入れるとき、１分あたりに入れる水の量をｘＬ、水を入れる時間ｙ分としたときの関係について表や式、グラフを用いて表す。

①　表を見て、１分あたりに入れる水の量が２倍、３倍…になると、水を入れる時間はどのように変わるか考える。

②　ｘの値が、$\frac{1}{2}$倍、$\frac{1}{3}$倍…になるとき、ｙの値がどのようになるか調べる。

③　①の表から反比例の関係を式に表す。

④　①の表から反比例の関係をグラフに表し、グラフの特徴についてまとめる。

〔変化と関係〕
伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。

中学校第１学年

反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求める

平成２４年度全国学力・学習状況調査　Ａ問題

１０　（１）下の表は、yがxに反比例する関係を表したものです。□に当てはまる数を求めなさい。

x	・・・	-2	-1	0	1	2	3	・・・
y	・・・	-6	-12	×	12	6	□	・・・

（正答）
４

正答率 51.4%　誤答率 44.2%　無答率 4.4%　（広島市）

〔関数〕
比例、反比例の意味を理解すること。

Point

反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基にｘの値に対応するｙの値を求めたりする活動を取り入れ、反比例の意味の理解を深めることができるように指導する。

本設問の活用の手順

反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基にｘの値に対応するｙの値を求めたりする活動を取り入れ、反比例の意味の理解を深めることができるようにするために、

①　□に当てはまる数を求めるだけでなく、その数である理由を反比例の性質などを基に説明する活動を取り入れる。具体的には、$y=\frac{a}{x}$という式で表せることや、「ｘの値が２倍、３倍、…になると、ｙの値が$\frac{1}{2}$倍、$\frac{1}{3}$倍、…になる」や「ｘとｙの積が一定である」といった性質を基にした説明を取り上げることを通して、反比例について振り返ることができるようにする。

②　□に０や－３を取り入れた場合を取り上げ、□に当てはまる数を正しく求めた場合と比較させることを通して、反比例についての理解を深めることができるようにする。

中学校数学

9（1）累積度数の意味を理解している。

9　保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することにしました。そこで、全校生徒３００人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

（１）　二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表

階級（時間） 以上 ～ 未満	度数（人）	累積度数（人）
4 ～ 5	1	
5 ～ 6	14	
6 ～ 7	75	ア
7 ～ 8	126	
8 ～ 9	62	
9 ～ 10	20	
10 ～ 11	2	
合計	300	

全校生徒の睡眠時間の度数分布表の［ア］には最小の階級から６時間以上７時間未満の階級までの累積度数が入ります。［ア］に当てはまる値を求めなさい。

■学習指導要領における領域・内容

〔第１学年〕　D　データの活用

（１）　データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解すること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
・　９０	４３．８％	４２．４％	１３．８％

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・　無解答 （反応率　１３．８％）	・　問題文の条件を読み取り、必要な情報を整理して解決の見通しをもつことができなかった。
・　０．２５ （反応率　９．４％）	・　相対度数と累積度数を混同している。

内容の系統と指導のポイント

別紙４－６

小学校第6学年

代表値の意味や求め方を理解する

データの特徴を調べて判断しよう（東京書籍第６学年）

６年１組、２組、３組の長縄の８の字とびのとんだ回数を記録したデータから各クラスの記録の特徴を見つけて、長縄の８の字とびの大会でどこが優勝するか予想する。

①　各クラスの平均値と最頻値を求める。
②　全体のちらばりの様子を度数分布表で表したり、ヒストグラムに表したりする。
③　各クラスのデータの値を大きさの順に並べて、中央値を求める。
④　それぞれの代表値の特徴などをもとに、理由を明確にしてどのクラスが優勝するか判断する。

〔データの活用〕
代表値の意味や求め方を理解すること。

中学校第１学年

累積度数の意味を理解する

令和５年度全国学力・学習状況調査

5　ある市の中学生の水泳大会における女子50ｍ自由形に出場した40人の記録を調べました。調べた結果を、次の累積度数を含めた度数分布表に整理します。

女子50ｍ自由形の記録

階級（秒） 以上 ～ 未満	度数（人）	累積度数（人）
27.00 ～ 28.00	3	
28.00 ～ 29.00	2	
29.00 ～ 30.00	4	ア
30.00 ～ 31.00	11	
31.00 ～ 32.00	8	
32.00 ～ 33.00	6	
33.00 ～ 34.00	3	
34.00 ～ 35.00	3	
合計	40	

女子50ｍ自由形の記録の［ア］には最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数が入ります。［ア］に入る値を求めなさい。

（正答）　9

正答率 45.4％
誤答率 43.7％
無答率 10.9％
（広島市）

データの分布の傾向を捉える活動を通して、累積度数の意味について理解できるように指導する。

〔データの活用〕
ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解すること。

本設問の活用の手順

データの分布の傾向を捉える活動を通して、累積度数の意味について理解できるように指導するために、

①　全校生徒の睡眠時間の度数分布表から「この学校で睡眠時間が７時間未満の生徒は何人いるのか」について累積度数を用いて考察する場面を設定する。具体的には、最小の階級から６時間以上７時間未満の階級までの度数の総和である累積度数が９０人となることから、睡眠時間が７時間未満である生徒は９０人であると判断できるようにする。

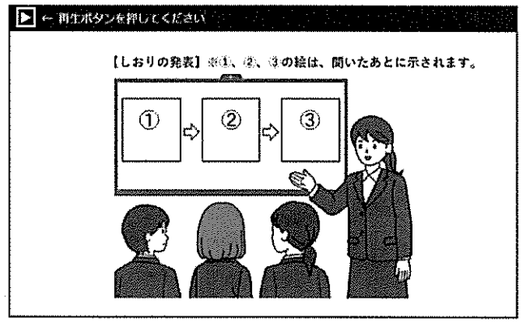
階級（時間） 以上 ～ 未満	度数（人）	相対度数	累積度数（人）	累積相対度数
4 ～ 5	1	0.003	1	0.003
5 ～ 6	14	0.047	15	0.050
6 ～ 7	75	0.250	90	0.300
7 ～ 8	126	0.420	216	0.720
8 ～ 9	62	0.207	278	0.927
9 ～ 10	20	0.067	298	0.994
10 ～ 11	2	0.007	300	1.000
合計	300	1.000		

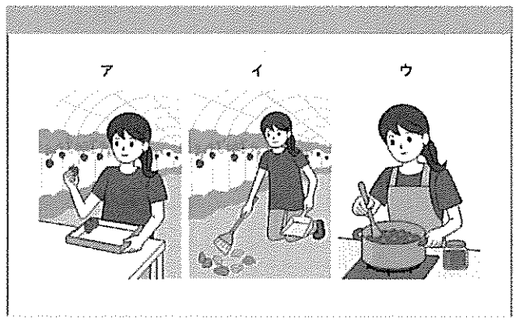
②　累積度数と合わせて、累積相対度数を表にまとめ、睡眠時間が７時間未満の生徒の割合を調べる活動を取り入れる。

中学校英語（聞くこと）

4　話を聞き、概要を捉えることができる。

＜問題文＞
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの３枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、１つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。





英語の音声スクリプト【画面１】

I had work experience at a strawberry farm last week.
In the morning, I made strawberry jam. I put strawberries and sugar into a pot, and cooked them.
After lunch, I picked strawberries. I checked their sizes and colors. I put them into the box.
Finally, I cleaned around the farm. I saw old strawberry leaves on the ground, so I collected them.
The work was hard, but I had a great experience.

■学習指導要領における領域・内容
聞くこと
イ　はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
・　ウ→ア→イと解答しているもの	３８．３％	６１．５％	０．２％

■主な誤答とその要因

各バンドに属する生徒の主な誤答	要因
【バンド１・２に属する生徒】 ・　イ→ア→ウ　と解答しているもの （バンド１　反応率　４２．０％） （バンド２　反応率　３５．６％） 【バンド３に属する生徒】 ・　ア→ウ→イ　と解答しているもの （反応率　２４．５％）	【バンド１・２に属する生徒】 ・　２つ目の場面”After lunch”と出来事を聞き取ることができているが、１つ目及び３つ目の場面・出来事を時間の流れに沿って捉えることができていないことから、２つ目の場面・出来事も捉えられていない可能性がある。 【バンド３に属する生徒】 ・　“Finally”、“cleaned”という情報から、最後に掃除をしたということは聞き取れているが、前半の連続する２つの出来事を時間の流れに沿って聞き取ることはできていないと考えられる。

内容の系統と指導のポイント

別紙４－７

小学校第６学年

短い話の概要を聞き取る

Unit2 My Daily Schedule　「日常生活について紹介し合おう」（東京書籍第６学年）
① 世界の学校や子供たちの生活などの日常生活について、英語を聞いて、やり取りの概要を捉える。
② 週末の過ごし方や、普段の生活でしていることについて、友達と紹介し合ったり書いたりする。
③ 自分の１日の生活について、表現を振り返ったり情報を整理したりして、「週末の過ごし方カード」の内容を考える。
④ 「週末の過ごし方カード」を用いて、お互いの生活をよく知るために、週末の過ごし方を紹介し合う。

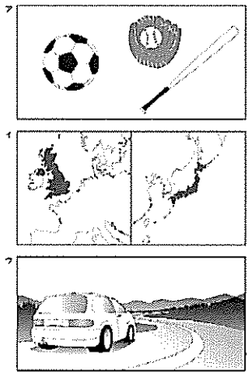
〔聞くこと〕小学校学習指導要領　外国語
ウ　ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

中学校第２学年

話の概要を捉えるため、場面の移り変わりを整理する

平成２９年度　全国学力・学習状況調査（大問２）

2　（放送問題）
英語の授業で、ある生徒が２つの国について調べたことを、次の３枚の絵を見せながら発表します。生徒はア、イ、ウをどのような順番で見せるでしょうか。
正しい順番になるように、１つずつ絵を選びなさい。



音声スクリプト
What countries are these? Yes, they are the U.K. and Japan. Both countries are the same in some ways. They are island countries, and cars run on the left. The two countries are different in some ways, too. In Japan, baseball is popular, but in the U.K., it isn't. Football is more popular than baseball. I think knowing about the life and culture of other countries is interesting. I want to learn more about them in the future.

〔聞くこと〕中学校学習指導要領　外国語
イ　はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

学習指導にあたっては、何に着目して話を整理するのかという視点（例：時間的な場面や空間的な場面）を共有すること、また、話された内容の音声スクリプトを読み、文章の構成や概要を捉えるための手がかりとなる表現や語句に着目させるよう指導する。

本設問の活用の手順

「話を聞き、概要を捉える」ことができるようにするための指導過程

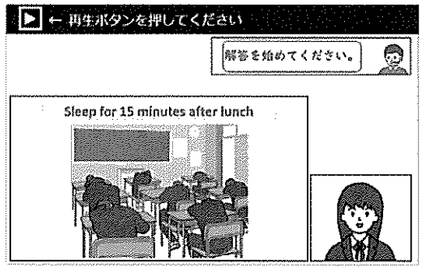
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握させる
⇒ 聞き取った情報から場面の移り変わりを整理させる
⇒ グループや学級全体で場面の移り変わりの整理の仕方を共有させる
⇒ 話を聞いて、友達と感想を伝え合わせる

中学校英語（話すこと）

19 話を聞いて、考えとその理由を話す。

＜問題文＞

あなたは、英語の授業で、オンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を英語で答えましょう。【考える時間１分　解答時間３０秒】



英語の音声スクリプト

At school, I often become sleepy in the afternoon. I think we should sleep for 15 minutes after lunch because we will feel better and can study harder later. Some classmates agree with my idea, but other classmates don't agree because they want to talk with their friends more. My idea is we should sleep for 15 minutes after lunch. Do you think my idea is good? And why?

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［発表］

ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
（正答の条件） 条件①　話し手の意見に対する自分の考えを話している。 条件②　条件①の理由を話している。 ・　条件①、条件②を満たして解答しているもの （正答例） It's a good idea because many students will study harder if they sleep after lunch. ・　文法事項などに誤りがあるが、条件①②を満たして解答しているもの （正答例） I think your opinion is very nice because I am often sleep after lunch.	２１．０％	５８．０％	２１．０％

■主な誤答とその要因

各バンドに属する生徒の主な誤答	要因
【バンド１・２に属する生徒】 ・　無解答 （バンド１　反応率　５２．３％） （バンド２　反応率　３５．９％） 【バンド３に属する生徒】 ・　条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの （反応率　２８．３％）	【バンド１・２に属する生徒】 ・　①かおりの話している内容を理解できなかった②かおりの話している内容は理解できたが、話す内容が思い浮かばなかった③話す内容は思い浮かんだが、英語の表現が思い浮かばなかった④聞いて話すという問題形式に慣れていなかったということが考えられる。 【バンド３に属する生徒】 ・　何かしらの英語は話しているが、内容に矛盾があったり、コミュニケーションに支障をきたす誤り（語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、内容の矛盾）があり、正確に話すことに課題があると考えられる。

内容の系統と指導のポイント

別紙４－８

小学校第6学年

簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを表現する

Unit6 Save the Animals「生き物のためにできることを発表し合おう」

（東京書籍第６学年）

① 単元のゴールを児童と共有した上で、世界が抱える環境問題などについてのやり取りの概要を捉える。
② アニメを見て、聞き取った重要な表現を使って指導者と児童でやり取りをする。
③ スピーチを聞いて、生き物の暮らす場所と抱える問題を聞き取る。
④ 生き物のためにできることについて読んだり、生き物が暮らす場所や抱えている問題について例文を参考に書いたりする。
⑤ モデル映像を視聴後、救いたい生き物を決め、生き物のために身近でできることについて、表現を振り返ったり情報を整理したりして発表の内容を考える。
⑥ 「わたしたちができることカード」について、中間指導を行い、発表内容を再構築した上で再度発表する。

〔話すこと（発表）〕小学校学習指導要領　外国語
ウ　身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

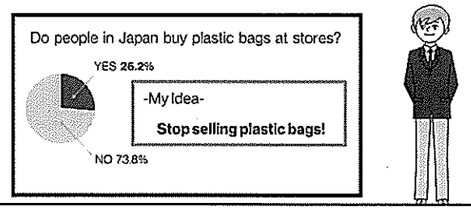
中学校第2学年

技能を統合して、自分の考えや気持ちなどを表現する

令和５年度全国学力・学習状況調査（「話すこと」大問２）

＜問題文＞

英語の授業で、ニュージーランドから来た留学生が環境問題についてのプレゼンテーションをしています。その発表やスライドの内容をもとにして、あなた自身の考えとその理由を英語で伝えましょう。１分間話す内容を考えたあと、30秒で話してください。メモを取ってもかまいません。それではプレゼンテーションを聞きましょう。



（スクリプト）

Do you buy plastic bags at the store? Or, do you use eco bags? Look at this picture. There are many plastic bags in the sea. It is a serious problem today. Now, look at this. I was really surprised to see this because over 25% of people in Japan buy plastic bags at stores. In New Zealand, stores do not sell plastic bags and we take eco bags. Some people may say plastic bags are becoming more eco-friendly, but I recommend stores in Japan should stop selling plastic bags. What do you think?

〔話すこと（発表）〕
ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、関簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

指導に当たっては、発表を振り返る視点を明確に示し、生徒が自らの考えや表現を再構築できるようにすることが重要である。振り返りの視点は、言語面（正確さ）と内容面（適切さ）に分けて焦点化し、ペアやグループ、学級全体で気付きを共有する。その上で、共有した気付きを基に、自らの考えや表現を見直し、再構築する活動を設定する。

本設問の活用の手順

「聞いたり読んだりしたことについて、理由とともに自分の考えや意見を伝える」ための指導過程

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握させる ⇒ 話し手の意見を聞き、要点を捉えさせる ⇒ 自分の考えとその理由を整理させる ⇒ 4.意見を交換し、自分の考えを再構築させる